



## ☆柿添病院

今月、柿添病院で研修させていただいております。平戸の地名は知っていたものの、来



るまではどういふところなのか全く想像も出来ませんでした。いざ来てみると活気のある明るい病院でした。救急車台数こそ都市部より多くはないものの、重軽傷を問わず多くの患者さんが受診され、研修の初日に佐世保まで片道1時間の転院搬送するなど都市部ではできない経験をさせていただきました。また院内での研修以外に通所リハビリテーション施設や老人ホーム、保健所などでの研修もあり、地域医療の中での病院の役割も学ぶことができました。それに加えてアフター5(6?)の活動も充実しています。こちらに来てからはソフトボールやテニスなどの活動に参加させていただき、病院近くの居酒屋へも何度も行かせていただきました。多くの方に支えられながら、とても居心地よく研修をさせていただいております。

甲斐 翔太郎 (静岡済生会病院)

仲 悠太郎 (九州中央病院)

## ☆青洲会病院

長崎青洲会病院でまず驚いたのは、その医療圏の広さです。田平、平戸をはじめとして、陸続きの場所では松浦や鹿町、離



島では大島や度島、青島などに訪問診療、リハビリを行っていました。中でも印象に残ったのは大島の患者さんです。大島は人口5000人程度の島で、診療所はあるものの、大掛かりな医療用の検査機械はない島でした。そこでの訪問リハビリを行っている患者さんで、過去に大島で脳梗塞を起こした方がいらっしゃいました。その時は奥さんにすぐに発見され、チャーター便で本島まで転送し、麻痺は残ったもののリハビリによって現在は歩行可能なまで回復されていました。福岡の病院でも脳梗塞の患者さんはたびたび来られますが、患者さんがその後どこまで回復するか一番重要なのは発症から治療までの時間です。離島に住んでいる患者さんは、早期発見できたとしても、本島まで来ないと治療が開始できません。恐ろしさを感じる反面、チャーター便や訪問診療、訪問リハビリが離島に住む人たちにとってどれだけ重要な役割を担っているのかも感じました。訪問診療を行うと、様々な疾患について相談を受けることがあります。普段の自分の病院なら、皮膚のトラブルは皮膚科へ、目は眼科へで終わる話が離島ではそうはいきません。あらためて、医師として幅広い知識と勉強が必要だと感じました。

森 貴之 (福岡青洲会病院)

## ☆平戸市民病院

平戸市民病院では、計3名の研修医が地域研修させていただきました。朝の健診に始まり、外来見学、救急当直、訪問診療や訪問看護



などに加え、度島・的山大島での離島研修といった普段の研修では決して経験することのできない体験をさせていただきました。今までの研修生活では疾患の急性期を診ることがほとんどでしたが、慢性期でほとんど変わらない患者さんも多く診ていくなかで、長期にわたっての診察を通じてこそ気付く、疾患の前兆となり得るほんのわずかな変化を見つけることの大切さを実感しました。この研修を通じて、今後医師として働く上での重要なことを教えていただいたように感じます。その他にも、平戸の素晴らしい自然にたくさん触れ、また長崎の歴史を少し学び、忘れられない貴重な経験となりました。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

大石 誠(長崎大学病院)

植木 秀登(神鋼記念病院)

小原 真奈(横浜労災病院)

## ☆生月病院

平成27年9月に平戸市立生月病院で研修させていただきました。一か月という短期間とは思えない濃厚な時間を過ごしました。外来では、底抜けに明るい先生方と対面する患者の方々の、嬉



しそうな笑顔が印象的でした。また在宅医療に同行し、島の人の生活と深く関わりながら医療することの面白さを実感しました。優しく芯の強い看護師の方々、事務の方々にも、感謝しきれない程助けて頂きました。プライベートでは、先生方に平戸の美味しい食事処や名所に沢山連れて行って頂きました。島の人は皆先生方をご存知で、人々と先生方との距離の近さにも感銘を受けました。医療を行うときに最も大切なのは、知識の正しさだけでは測れない、人々の幸せの一助になろうとする心意気だと感じました。この経験を力に変えて、今後も頑張ります。本当にありがとうございました。

吉開友羽子 (西神戸医療センター)

田中淳 (西神戸医療センター)

藤井由佳 (嬉野医療センター)

平成27年9月30日

発行：ながさき県北地域医療教育コンソーシアム

<http://agonet.jp/>

